

OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

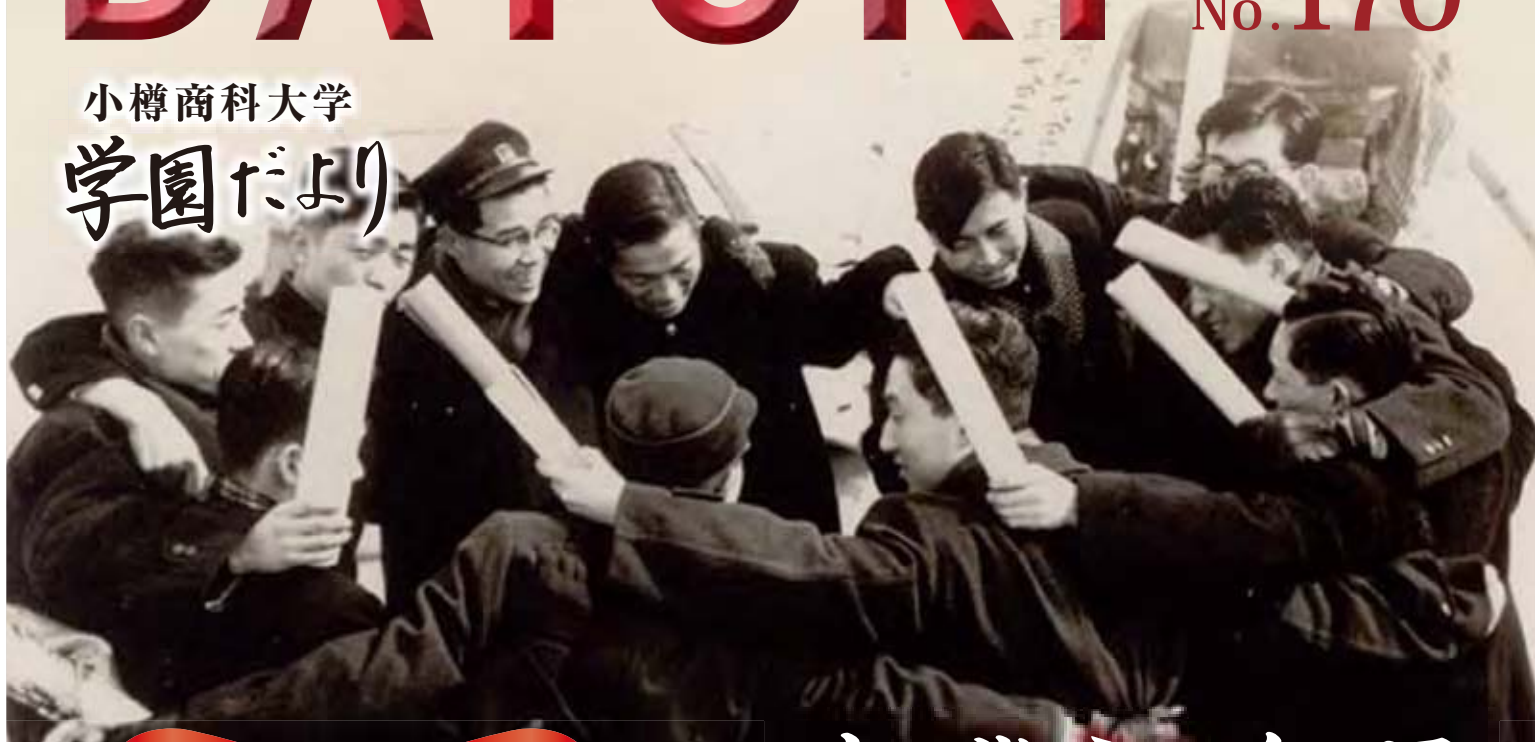
GAKUEN DAYORI



19 March 2013

No.170

小樽商科大学
学園だより



卒業記念号



品格とは何か

学長 山本 眞樹夫



小樽商科大学校歌

時 雨 音 羽 作詞

杉 山 長谷夫 作曲

(一)

金鱗おどる渺々の
あけぼの称う浪の唄
エルムの花に若人の
涯なきのぞみ数々秘めて
夢うるわしの緑ヶ丘よ

(二)

夕陽映ゆる白樺の
梢をわたる風の唄
慈愛の山のふところに
銀翼みがき駿足秘めて
唄ほがらかなの緑ヶ丘よ

(三)

蒼穹ははず道つきず
はるかに仰ぐ北斗星
栄冠迎うこの胸に
飛躍の力ひととき秘めて
花咲き匂う緑ヶ丘よ

(四)

健腕拓く五大洲
凱歌はあがる我母校
感激みてる若人の
血潮に清き教えを秘めて
春永遠の緑ヶ丘よ

若人逍遙の歌

高 島 茂 作詞

宮 内 泰 作曲

口上

春風颯々として山河をめぐり

百花繚乱の盛夏となりぬ

霧水来たりて百山紅を呈し

龍田の朔北(と)なれば暗雲天空を覆い嵐を呼び

紅山白山と化しその白雪の中に身を埋める

その厳しき天地のすべ我等が俗世と何の関わりが有ろうか

連山残雪に覆われし頃比の朔北の地に移りし我等なれば

何を悩み何をば求めん

俗世の安楽冥利とは大海に漂う塵の如し

我等その塵に何ぞ命を託さんや

今こそ悪夢より覚醒出でて

打ち寄する荒波の如き熱き血潮を持って杯をかかげん

春宵の暁にいざいざいざ歌わんかな我等が命を

(一)

琅玕融くる緑丘の 春曙を彷徨へば

浪漫の霧に街沈み 風悠久の言葉あり

瀾染の桜花吹雪つつ 慌しくも逝く春の

伝統ふるき学舎に 展ける海の涯しなき

(二)

夏白樺に囁やきて ハイネの詩を口誦さむ

眉目美わしき眼差の 又なき時のいとおしき

断崖落ちて波砕け オタモイ遠く帆走れば

小樽の嶺々の夕あかね 冴ゆる北斗に嘯ぶきぬ

(三)

秋肃条の思い濃き ポプラに懸かる雲消えぬ

流転の行旅夢に似て 悩みの思惟を誰か知る

感傷啜うことなかれ 桜ヶ丘にたたずみて

泪滂沱と憂愁の 落葉の行方 哲うかな

(四)

氷雪海に傾きて 月寒ければ繻とかむ

晦冥行路遠けれど われに港の乙女あり

流星落ちて影もなし 行く青春の足音に

生命を惜しむ若人は 永却の杯酌まんすとす

■平成24年度卒業生諸君に	
学長 山本 眞樹夫	2
■卒業生へ	
副学長(総務・財務担当) 和田 健夫	3
副学長(教育担当) 大矢 繁夫	3
副学長(大学評価・中期目標担当) 奥田 和重	3
公益社団法人 緑丘会	
公益財団法人 小樽商科大学後援会	
理事長 齊藤 慎二	4
緑丘会からのお知らせ	5
■卒業生インタビュー	
商学 科 渡邊 未樹	6
企業法 学科 菊池 将彦	7
社会情 報学 科 高橋 征勝	7
■修了にあたって	
商学研究科現代商学専攻 田中 みのり	8
商学研究科アントレプレナーシップ専攻 鈴木 政秀	8
■退職教員あいさつ	
経済学科 特任教授 鵜沢 秀	9
経済学科 教授 花田 功一	10
企業法学科 特任教授 結城 洋一郎	11
一般教育等 特任教授 寶福 則子	12
一般教育等 特任教授 兼岩 龍二	13
言語センター 特任教授 杉村 泰教	14
言語センター 特任教授 高井 收	15
言語センター 特任教授 君羅 久則	16
アントレプレナーシップ専攻 教授 中村 秀雄	17
■教員名簿	18
■商大掲示板	
平成24年度 学生表彰	20
第7回「学生論文賞」	21
■平成24年度 小樽商科大学就職状況	22
■卒業後に卒業証明書等が必要になったとき	25



品格とは何か

卒業生、修了生の諸君、卒業、修了おめでとう。諸君が学園生活を送った期間は、本学にとって、また日本にとって激動の時代でした。丁度二年前の3月11日、M9という巨大地震が発生し、大津波が東日本太平洋岸の街々を壊滅させ、それにともない福島原子力発電所がメルトダウンするという未曾有の危機がわが国を襲いました。あれから、すでに二年が経ちます。復興は、始まったばかりといってよいでしょう。福島の原子力事故はいまだ継続中であり、終息の見通しすらたっていない。

本年度前期、本学では「震災と復興」という講義を開講し、震災の現場で、命がけで復旧活動を行ってきた人たちの話を聞き、また一部の学生諸君には現地へ行ってもらい、その様子を報告してもらいました。諸君の多くは、これから自らの仕事を通じて、何らかの形で復興にかかわることになるでしょう。私は、学生諸君がこの講義を驚くほど真剣に受講する姿をみて、わが国がみごとに復興するであろうことを確信しました。

一方、昨年5月7日、アメリカンフットボール部が本学グラウンドでバーベキューパーティーを行い、9名が救急搬送され、うち一年生1名が亡くなるという大変不幸な飲酒事故が発生しました。亡くなられた学生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

この飲酒事故は、本学構内で発生し、9名もの学生が搬送

され、死亡事故にまで至ったことなどにより、大きな社会問題となり、本学創立以来ともいえる危機となりました。初代校長渡邊龍聖以来「諸君を紳士として遇する。」という理念の下、学生諸君を常識と判断力を備えた大人として扱い、自由闊達で自主的な活動を尊重するという本学の品格教育のどこかに隙はなかったのか。いま私自身、自問しています。

諸君は、「実学、語学及び品格」の育成という本学の教育理念のもとに学園生活を送ってきたはずです。実学と語学は比較的分かりやすい理念です。しかし、実学と語学は、担い手に品格があってこそ人々から尊重され、輝く力となります。では品格とは何か。理解も習得も大変難しい理念です。一人ひとりが永遠に問い続けなければならない理念かもしれませぬ。

いま、日本は超高齢化、人口減少社会となっています。やみくもな経済効率の追求やマネーゲームによる成長は期待できませんし、また求めるべきではありません。むしろ、世界の多様な価値観の認識と理解、地球環境との共生、地域社会の絆といった、グローバルな視野をもちながらも、人間性を尊重する「優しさ」や「いたわり」が本当の価値を持ち、新たな成長の核となるでしょう。すなわち、経済政策や経営戦略にも品格が問われる時代になっています。品格とは何か。問い続けて下さい。

平成25年3月19日

国立大学法人小樽商科大学長

山本 真樹夫



卒業生・修了生の 諸君に

副学長(総務・財務担当)

和田 健夫

長い研鑽を経て、緑丘を去る諸君に心からお祝いを申し上げます。
教職員一同、諸君と生活を共にしたことを誇りに思います。

日本の社会は今大きな変革期にあります。われわれは、モノ、金、
情報が瞬間に国境を越えて移動し人々の生活を支配する時代、一
国では実現できないような豊かさを実現できる代わりに貧困、経済

危機、環境破壊が地球的規模で発生する危険をはらんだ世界に生き
ているのです。財政問題、高齢化社会、複雑な国際政治、環境保全
など、かつてない難題・課題に取り組まなければなりません。

わが国には閉塞感が広がっています。人々は内向きになり、新しい
時代に一步を踏み出せない状況が人々の心を支配していると言われ
ます。しかし、日本は、高い文化と優れた技術を持った国であり、様々
な分野で国際的に活躍している日本人がいます。私は、日本人のもつ
優れた能力・資質、意欲を信じています。

難しい時代にあって、大切なことは、個人の力、自律した意識と行
動ではないでしょうか。しかし、このことは、各自が勝手気ままに生き
ればよいということの意味しません。自律した意識・行動は、高い倫
理観を伴うものであり、他の人々や異文化と共生する心によって育ま
れるのです。卒業後も、修養と自省を怠らないようにしてください。



卒業・修了 おめでとう

副学長(教育担当)

大矢 繁夫

卒業・修了おめでとうございます。
今、心から、喜びの気持ちを表します。

諸君が卒業を迎える本年度、小樽商大は、とても不幸な、悔やみ
きれない事故に見舞われました。アメフト部の飲酒事故です。過度

飲酒の怖さについて全く認識を欠いていたことによるものでした。部
内の長年の因襲に無批判のまま流されていたことにも、無念さが残
ります。私たちは、この事故のことを深く胸に刻まねばなりません。

諸君はこれから社会に踏み出します。自らを律し、自らを治めるこ
とのできる確固とした「大人」として、社会を支え、リードしていく存
在として期待されます。「周囲に追随していけばよい、責任は自分
にはない」というような付和雷同の心が少しでもあれば、それを払拭
し、自律自治の凜然とした姿勢を築いていってください。諸君はそれ
を成すのに十分知的です。これからの人間と社会の在り様を考える
高い志と見識を磨き、社会に出て経験する蹉跎から何度も立ち上り
、怯まずに、潤いと活力のある人生を創っていってください。

諸君の人生は、どのようなことに遭遇しようとも、うまくいかないは
ずはないのです。



卒業生・修了生の みなさんへ

副学長(大学評価・中期目標担当)

奥田 和重

卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。期待
と不安を胸に校門をくぐった入学式の日以来、勉学に励み、サーク
ル活動に汗し、試験に涙し、中にはアルバイトに精を出した人もいた
でしょう。社会人の方には仕事と勉強の両立に苦労されたかもしれ
ません。みなさんが卒業・修了の日を迎えられたのは日々の弛まな
い研鑽の賜物です。みなさんが常に社会で有用な人材であり続け

るには、本学での学業を終えた後でも学びつづけなければなりま
せん。学び続けるためには、まず自らが直面している課題を発見し、
それを解決するという能力を必要とします。何が問題であるのかを
見極める能力、その問題を明確にして適切な解決策を考案する能
力が必要になります。これらの能力が欠けていれば何を学べばよい
のか、ということ判断することができません。大学は、何よりもま
ずこの課題を発見し解決する能力を培う場です。これらの能力が備
わっていればこそ社会に有用な人材であり続けることができるので
す。小樽商科大学は「社会の指導的役割を果たす人材の育成」を
教育目的の一つにしています。これらの能力が備わった人こそ社会
で指導的役割を果たす人材になり得ます。みなさんが、さらなる研
鑽を重ねられることを期待します。

祝 辞

公益社団法人 緑丘会
公益財団法人 小樽商科大学後援会

理事長 齊藤 慎二



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
今、大きな夢と希望を抱いて、緑丘から、まさに、第一歩を踏み出さんとしている皆様に心からお祝いを申し上げます。

また、ご子弟の健やかな成長を願ってこられたご家族の皆様、並びに、ご指導にあたってこられた先生方のお喜びもひとしおのことと拝察し、ここに、小樽商科大学の同窓会である「公益社団法人 緑丘会」を代表し、一言、お祝いを申し上げます。

さて、私たちは国の内外に多くの課題を抱えており、加えて、大震災からの復興など緊急に解決すべき問題にも直面しております。

まさに、社会システムの改革やグローバルな見地に立っての対策が急がれているところであります。

このような時期に卒業され、社会人となり、または、上級の研究課程に進まれる皆様にはますます研鑽を積まれ、一層成長され、自らが先頭に立ち、社会に貢献されるように切に希望します。

ところで、「公益社団法人 緑丘会」は1939年(昭和14年)に法人化され、全国に26の支部を有し、会員6千名余を擁しております。緑丘会員は、ビジネスの分野のみならずまた、国の内外を問わず、目覚ましい活躍をしております。

「公益社団法人 緑丘会」は、諸先輩の永年にわた

るご活躍により、その活動と強い結束力は各分野から高い評価を受けております。

これからも会員相互のネットワークと母校支援を、さらに強化してまいります。

また、1960年(昭和35年)には、母校の学術振興に対する助成を推進するために「財団法人 小樽商科大学後援会」を設立いたしました。

小樽商科大学後援会は、全国の国立大学の同窓会として他に例を見ない規模で緑丘会員を中心として寄付を受け、公益事業を推進する観点から、母校を支援してまいりました。

母校は、「公益財団法人小樽商科大学後援会」の募金を原資として、国際交流の促進、札幌サテライトの開設運営、ビジネス創造センターの設置、輝光寮の建設等、特色ある事業を展開し、目覚ましい成果をあげてまいりました。

本日で卒業される皆様には、伝統ある「公益社団法人 緑丘会」に正会員として入会され、緑丘会員相互の交流を図るとともに、母校を支援する緑丘会の事業活動の発展のため是非とも若い力を発揮いただけるように大いに期待いたします。

皆様の洋々たる前途を祝福し、併せてご多幸とご健闘を祈念し、お祝いの言葉と致します。

小樽商科大学同窓会 公益社団法人緑丘会

事務局からのお知らせ

事務局長よりメッセージ

公益社団法人 緑丘会 常務理事

事務局長 桶谷 喜三郎
(昭和41年卒)

皆さま、ご卒業誠におめでとうございます。

国内外ともに、極めて多難な状況が続いていますが、この緑丘から実社会へと大きな希望を抱いて巣立つ皆さまに心からお慶びを申し上げます。

小規模大学の伝統的な強みは、卒業生の結束が固く絆が太いことです。

激烈な競争の企業社会を過ごしてきた経験から申し上げますと、この大学の先輩はみな優しく親切です。いろいろな面で助けていただきました。人脈の輪を広げて、視野を広げるためにも是非、緑丘会に入会することをお勧めいたします。

札幌駅西隣にオープンしています「札幌サテライト」には、大学当局のご厚意により、緑丘会・札幌事務所と札幌支部のスペースを提供していただいております。皆さまのベースキャンプとしてご利用ください。

また、東京には緑丘会館があります。ちょっと小樽と母校の薫りがするオアシスとして、また東京の足場として是非ご利用ください。テレビ会議システムや無線LANなどのIT環境も整っています。卒業生は勿論ですが、在学生および教職員の方々、ご家族の皆さまのご来館もスタッフ一同心からお待ちしております。

業務日誌 (抜粋)

2012年

- 4月14日 新芽交流会(平22/23卒・24新卒合同交流会)
- 5月12日 若手OB/OG会員・ホームカミングパーティ (於 緑丘会館)
- 6月 9日 公益社団法人緑丘会・第1回社員総会/東京支部総会
東京支部講演会
講師：小樽商科大学 商学部社会情報学科准教授 大津 晶氏
- 16日 札幌支部総会
- 7月 5日 小樽支部総会
- 12月 3日 東京支部講演会
講師：仙台銀行企画部長(宮城支部副支部長) 尾形 毅氏
- 11日 小樽支部忘年懇親会

2013年

- 1月 7日
- ~8日 東京就活体験会、現役学生/OB・OG交流会
- 11日 阪神支部新年会
- 12日 東京支部新年交礼会
- 2月 1日 宮城支部新年会
- 2月11日 札幌支部新年交礼会

(公社)緑丘会本部, 会館所在地 (入会及びその他の問い合わせ)

(公社)緑丘会本部・東京事務所 〒170-6057 東京都豊島区東池袋3丁目1-1サンシャイン60(57階)
Tel 03-3981-2340 Fax 03-5396-4011
URL <http://www.ryokyu-web.net/> E-mail: ryokkyukai@axel.ocn.ne.jp

(公社)緑丘会本部・小樽事務所 Tel 0134-27-5463 (月～金 午前10時～午後4時)
(小樽商科大学事務棟2階)

(公社)緑丘会本部・札幌事務所 〒060-0005 札幌市中央区北5条西5丁目sapporo55ビル(3階)
小樽商科大学札幌サテライト内
緑丘会・札幌支部 Tel 011-231-6900 (月～金 午前10時～午後4時)
E-mail: ryokkyukai@galaxy.ocn.ne.jp

卒業生インタビュー

知識を広げながら コミュニケーション力を つちかった4年間



商学科

渡邊 未樹さん



私が商大進学を希望したのは、商業を学びたかったからです。授業は一般科目、商業科目のどちらもとれるので、知識の幅が広がります。また、キャンパス自体は小規模なので、先生の顔も覚えやすく、生徒同士の交流もしやすい環境です。そのような環境の中、思い出に残っているのは、英米文学を研究する英語ゼミ「吉田ゼミ」で勉強したことです。もともと英語に興味があり好きだったのに、その気持が薄れていた私は、もう一度英語が好きになりたいという思いで吉田ゼミを選びました。吉田ゼミでは、英語でのディスカッションが中心で、イギリスの英文学者デイヴィッド・ロッジの作品を題材に、その内容に関して議論を行います。その本を読むだけでも大変なのに、自分の考えを英語で話さなくてはならないので、予習は必須です。苦手だ、わからないなどといっていただけません。自然と英語に触れる時間が増え、ゼミ室にいる時間も増えました。議論をしておもしろいと感じたことは、同じ本を読んでも、学生それぞれが違った感想や意見を持つことです。英語が完璧にできなくても、みんなが必死で意見を伝えようとし、聞くほうも何とか細かな意図までくみとろうと一生懸命に耳を傾けます。回を重ねるごとに英語を話す楽しさ、聞く楽しさが増しました。

英語サークルにも所属し、他大を含めた7大学で行うスピーチ・ディスカッション・ディベートの大会に参加。3年生のときにはディスカッション部門の大会運営委員長も務めました。また、オーストリア人留学生のチューターも引き受けました。彼女とは、ドイツ語・英語・日本語を混ぜて会話しながら、言語に頼らず、相手にどのようにして自分の言いたいことを伝えたらよいのかを考えるきっかけとなり、この4年間を通じてコミュニケーション能力を養えたと思っています。

小樽に育まれて人間としても成長 小樽の人とまちに感謝



企業法学科

菊池 将彦さん



私が商大でもっとも打ち込んだことは、YOSAKOIサークル翔楽舞(しょうがくぶ)の活動です。2年生で副代表、3年生で代表を務めました。翔楽舞の演技をはじめて目にした時、ずしんと心に感じるものがあり、直観的に「やりたい」と思ったのです。「小樽雪あかりの路」でのワックスボール作りや、「潮まつり」での演技披露など思い出はたくさんあります。中でも特に印象に残っているのは、3年生の時の、花銀通り商店街が中心となって行われる「さくら祭り」です。私は祭りに参加するにあたり、ステージ型ではなく、ストリートを練り歩くパレード型の演技を小樽の人に見てもらいたいと思いました。それまでは、地方車という巨大スピーカーを乗せたトラックの走行許可がおりず、ストリートでの演技が実現できていなかったのです。翔楽舞は100名以上が所属する大所帯で、衣装、音楽、振付などチーム分けをし、みんなで手作りで形にしていきます。私は代表としてそれらをとりまとめながら、地方車の警察許可申請や手配、沿道の安全確保や踊りの練習などを行い、祭り当日は、市内中心部を大迫力の音響で思いきり練り歩き、小樽の方々にYOSAKOI本来の醍醐味を伝えられました。YOSAKOIソーラン祭りを、生で見たことがない人々からも、驚きの表情とともに大きな拍手をいただきました。翔楽舞は、地元企業や商店街のみなさんなどから資金的にもバックアップをいただいています。ですから、活動を通して地域に恩返しをしたいという気持ちがあり、それが達成できてよかった、また、前例がないことを成し遂げたのは、私たち翔楽舞にとって大きな体験だったと実感しています。人とのつながりをどのようにつくってどのように活かすのかを学び、まわりの方々から温かい気持ちや声援をいただいた学生生活でした。出会ったすべての方に対して感謝の気持ちでいっぱいですね。

愛する地元小樽で 学生生活に全力でトライ



社会情報学科

高橋 征勝さん



私は生まれも育ちも小樽で、小樽にかける想いは、誰にも負けないと思っています。地元活性化のための何かをやりたいと思い、商大に進学しました。そして勉強はもちろんのこと、自分のやりたいことを全てやりきろうと決めていました。生協学生委員会の活動をみて「おもしろそうだ」と思い、参加。他にも、男子バレー部、バドミントンサークル、学校祭実行委員長と、いろいろな活動を経験しました。

多くの活動をした中でも、やはり入学当初からの目標でもあった「小樽のまちを活性化させたい」という私の思いは、「本気プロ」で本格化したと思います。商店街に人をたくさん呼ぼうというテーマで「MEGAクロスワードラリー」を企画。学生と商店街、小樽市が協力し合って実現したコラボ企画です。期間内に商店街をまわってお店に入らなければわからないクイズに答えながら、クロスワードパズルを埋めてもらい、応募者の中から抽選で商店街の商品をプレゼントするというもので、実際に商店街のみなさんと話をすると、活性化とひと口にいってもそれぞれの事情や考え方があることがわかりました。そして、小樽の人が小樽を守り、支えることこそが重要だと感じたのです。今後私は、本気プロの活動の中で学んだことを生かし、社会人として働きながら小樽へ貢献できることを生涯に渡って模索したいと思っています。

ほかにも、マーケティングの授業では、それまでのものの見方や観点が変化しましたし、ディスカッションが多かったのでさまざまな人の意見を聞くうちに、人間観を広げられました。このような授業は商大の特徴だと思います。だからこそ、商大生はコミュニケーション力があり評判が高いのだと思います。商大生は受け身ではいけません。後輩達には自分から挑戦して充実した大学生活を送ってほしいですね。



大学院修了にあたって

小樽商科大学大学院商学研究科
現代商学専攻博士前期課程

田中みのりさん

私のこの大学院での二年間は素晴らしい方々との出会いに満ちていました。

研究の一環として、約一年に渡り英語の指導助手をさせて頂いた小樽市内の小学校の先生方は、教育実習では経験のできない長期間にわたる児童との関わりの中で教員としての心構えを学ばせて下さり、さらに私の理想の教師像になってくださいました。

また、研究や修士論文の執筆に行き詰まりどうしてよいかわからなくなった時には、担当の先生が私と私のやろうとしている事を信じ励まし続けて下さいました。さらに先生は、母国語の通じないラオスの中学校・高校で英語を教えるという素晴らしいチャンスを与えて下さいました。現地での出会いもとても素晴らしく、教員という職業や英語教育、異文化交流に対する価値観が大きく変わる出来事がたくさんありました。

この他にも学部時代に引き続き研究や進路について惜しみなくアドバイスを与えてくださった先生、大学を卒業してもさらに勉強を続けたいと言った私を支えてくれた家族には本当に感謝しています。

この二年間でお世話になった方々の支えなしでは、私は研究を最後まで続けることは不可能でした。この感謝の気持ちを大切に、教員としての人生を一生懸命進んでいきたいと思っています。



修了にあたって

小樽商科大学大学院商学研究科
アントレプレナーシップ専攻

鈴木 政秀さん

2011年に32歳でOBSに入学しました。入学の動機は、米国の大学に通っていた際に友人がMBAを取っていたこともあり以前から興味を持っていたこと、そして現職の総合商社で輸出の開発業務を担当しており、より効果的な開発手段を体系的に学ぶこと、の二点でした。現職の後輩からOBSのことを聞き、体験入学などには全く参加せず躊躇することなくすぐに願書を出しました。

OBS在学中の2年間はあっという間でしたが、2年の前期は本当に大変でした。特に2週間に2冊の本を精読しレポートを書く講義があり、寝る間も惜しんで読書に没頭しました。徹夜も結構ありました。そのおかげもあり、入学当初とは比較にならない程の教養が身に付いたと思います。

修了後の目標は、OBSで学んだ知識をアウトプットとして更に実務に活用する事です。習得した知識は利用しなければ意味がありません。今後の仕事のやり方に関しても、今までの自分自身の経験や勘と講義内や同期・先輩から学んだロジックの二つを融合させたハイブリットの「MBA脳」で自社の発展、北海道の発展、国益の向上に寄与すべく、更にまい進して行きたいと思っています。

2年間大変お世話になりました。有難うございました。



退職にあたっての思い出

経済学科 特任教授
 鶴沢 秀

まだ雪の残る、1978（昭和53）年4月に赴任して以来、35年間にわたって本学にお世話になりました。多くの先生方、職員のみなさん、学生のみなさん、とりわけゼミ生に恵まれて、この緑丘で過ごせたことに大変感謝しています。

最初、1年生科目の「経済学概論A」と「経済学概論B」の2科目を教えました。この授業を受けた学生が最初のゼミ生ですので懐かしい思い出として今も記憶に残っています。その後、「経済原論I」も教えるようになり、卒業予定者を含む、高学年の学生さんへの対応を数多く経験するようになりました。いろいろなタイプの学生さんがいました。懐かしい思い出となりました。

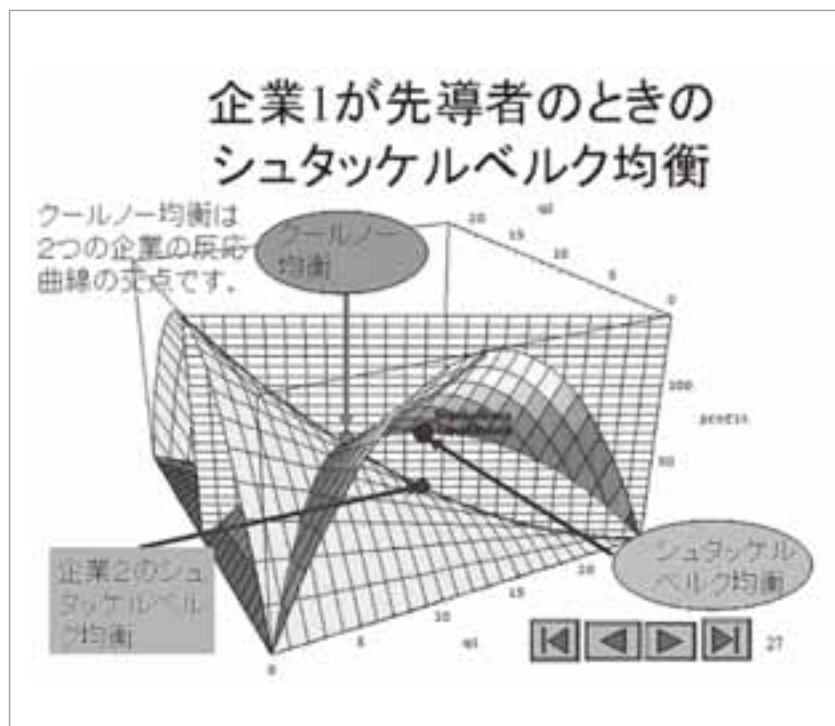
経済学学習方法の改善を目指してCAL (Computer Assisted Learning) の研究を1981年頃から進めてきました。経済学はわかりにくいと漏らす学生さんや経済学にあまり興味を持たない学生さんにも経済学を理解して欲しいと思ったからです。コンピューターの進歩や数式処理ソフト (REDUCE や Mathematica など) の活用により教育改善推進費 (学長裁量経費)、科学研究費補助金などを共同研究者とともに受けて研究することができました。

文部省の在外研究員と私費による延長を含めて1992年3月から2年間にわたり、アメリカのロチェスター大学とコロラド大学ボルダー校への海外研修の機会を与えられ、大変有意義に過ごすことができました。帰国してから「産

業組織論」や「応用経済学」などにその経験を活かすよう努力してきました。教室内経済学実験 (クールノー競争、ベルトラン競争、談合実験など) を取り入れた授業に学生の皆さんやゼミ生が興味をもってくれたことが嬉しかったです。

3次元表示による利潤曲面やある利潤水準で利潤曲面を切断した画像のアニメーションを数式処理ソフト Mathematica や JavaScript, HTML 等で作成し、Web ページにも公開しました。このように工夫をしたクールノー均衡やシュタッケルベルク均衡の説明が多くの受講生に好評だったので特に嬉しく思います。

最後に私の標語:「図 (Figure あるいは Chart)」と「表 (Table)」の区別をしよう。



退職に際してのご挨拶

経済学科 教授

花田 功一

授業と研究に追われてあたふたしている間に 30 数年があっという間に経ってしまいました。時の経つのは速いものだと改めて痛感させられています。

私はマルクスの『資本論』の研究を志していましたので、一生『資本論』やマルクスが研究対象とした A・スミスや D.リカードなどの古典派経済学の研究で終わるつもりでいましたが、戦後の経済の変化があまりにも激しかったため、また、本学ではマルクス経済学を担当しているのは私だけという事情もあったため、古典研究だけというわけにもいなくなり途中からスタグフレーションやバブルや経済の長期的停滞といった『資本論』の枠組みにはなかった新しい現象について研究を進めていかざるを得ませんでした。そして、もちろん、そうした現象を解明するためには実証的な研究が欠かせなかったため、それまではあまりやってこなかった実証研究にも歩を進めていかざるを得ませんでした。当時はまだ今のように、政府の各省庁のホームページから様々な統計を一挙にダウンロードして、伸び率などをエクセルで簡単に計算できるというような便利な状況ではなかったため、慣れない統計の収集作業にもずいぶん時間がかかりました。

こうして、次々と新しい問題について考えていかざるを得なかったため、一つの問題をゆっくり詰めて考える余裕がなかなかなく、研究者らしい研究をじっくり行っていくことができませんでした。しかし、その反面、最初は理論研究だけと思っていたのが実証研究も行い、それに基づいて理論展開を考えるという経済学研究の本来の姿を追求し、楽しむことができました。そして、そうした理論研究と実証研究の統一という経済学の本来の姿を授業にも反映させてきましたので、理論のみの授業が多い本学の経済学科の中で経済学本来の姿を学生にも具体的に指し示すことができたのではないかと思います。

ただ、上のような次第で研究者らしい十分な業績を上げることができず、研究に関しては本学に目立った貢献をすることができませんでした。自分の能力の限界のなせる技とはいえ、その面では大変悔やみが残ります。

30 数年の長きにわたって私に自由に経済学の研究をすることを許していただいた本学の皆様方に心より感謝いたします。





退職のご挨拶

企業法学科 特任教授
結城 洋一郎

小樽商大の皆さまには、長い間大変お世話になりました。

1979年に赴任して以来35年近く経ったわけですが、月並みながら、その実感が湧きません。これから入試の監督やらゼミ生の卒業式やら、研究室の後片付けやらが残っていて、そちらの方が気になっているところです。

とは言うものの、本学に採用して頂いた時の喜びと、同期で赴任した4人の方々の記憶は今でも鮮明に残っております。

辞令交付の当日、同期の一人の方と組合に行き加入させて頂きました。まあ、やっと人並みの労働者になれたという思いだったわけで、以来、ずっと組合員できたことを誇りに思っております。お蔭さまで、海水浴や麻雀大会、折々の飲み会など、事務職・教員の方々とは大変楽しい時間を過ごさせて頂きました。

赴任当時は当然ながら私も若く、古参の事務職からは呼び捨てにされながら酒を飲まされたりしていました

が、恐らく、こういう雰囲気が戻ることは、もうないのでしょう。思えば、良い時代だったのですね。

また、本学は小規模大学の故に学生との距離も近く、特に赴任当時は、教師対学生というより先輩・後輩のような関係だったように思います。ゼミ、サークル関係の合宿や飲み会では随分親しく付き合っており、昨今の世知辛い規範意識からすれば、各種のハラスメントまがいと言われかねない距離感だったのかも知れません。当時の学生さんには大変失礼致しました。(でも、もう退職しますので、今まで通りで良い方はまた飲みましょう。)

というわけで、職務上の大過もなく、危ういながら処分も受けずに退職することができそうなのも学生・教職員の皆さまのご厚意の賜物と、心から感謝申し上げます次第です。

こうした想いを込めつつ、本学および関係者の皆さまの益々のご発展をお祈り申し上げ、退職のご挨拶とさせて頂きます。長い間、大変ありがとうございました。





退職にあたってご挨拶

一般教育等 特任教授
寶福 則子

小樽で生まれ、育って、その故郷の小樽商大の教員となってから23年間、今年、その職業生活を終えるにあたり、学生・OB・教職員の皆さんに一言ご挨拶申し上げます。

この間、学内のいろいろな場面で、さまざまな出会いがありました。

まずは、学生ですが、やはり基礎ゼミの学生とゼミ生とは濃密に付き合っただけに、彼らの中には、それぞれに意味合いはちがっても、非常に印象深い人々がたくさんいます。そして、同じ学生でも90年代末に「えこぷらん」というサークル活動を共にした学生たちと柴山先生。そして、この活動を共にサポートしてくれた、(学外のひとたちですが)私の高校時代のテニス仲間だった友人たち。

心優しき同僚や職員の皆さんにも恵まれました。すでに退職された同年代の女性職員たちや転出していっ

た若い教員の同僚たちとも良き友人として付き合いが続いていますが、小さい大学だから、学科や職域を超えて、知り合うことができました。最初の頃は、教職員組合を通じて、終業後、キャンパスの桜の木の下でのお花見などでジンギスカンにお酒も入り、遠慮のない付き合いができました。残念なことに、繁忙化?によって、こういうこともできなくなって久しいですが、これは学内の風通しを良くするのに、大いに貢献すると思います。これは小樽商大の良き校風だったのだらうと思っています。

私は、その時々で、怒ったり、悲しんだりすることもありましたが、生まれ故郷の、小樽商大で過ごした23年間の職業生活は、大変、幸せでした。

これまでの職業生活の中での経験を、そんな風に「幸せだ」と感じさせてくれた皆さんに心から感謝申し上げます。





退任にあたって思うこと

一般教育等 特任教授
兼 岩 龍二

私が本学に赴任したのは1978年の12月でありました。2012 - 1978 = 34ですから、34年ということになります。あっという間に過ぎ去った年月ですが、顧みれば長き年月ということになります。そもそも私がこの職に就きたかったのは、云うまでもなく、数学の研究に打込みたかったからであります。勿論この職は教育職なので教育することは職務なのではあります。大学教育というのは本来、「自己の研究を教育に反映させなければならない」と言うテーゼがありますので、教育者としては忸怩たる思いがありますが、甘んじて居座り続けた訳であります。

ところで34年間で何ができたかということになれば、

これも甚だおぼつかない。ほとんどの大学教授がそうであるように、数学史上においては、単なる「石ころ」位しか残すことができない。せめて「一里塚」位は残しておきたかったのですが、これはまだ「人生」が終わった訳ではないので、これは今後の課題にしていきたいと思えます。この点に関しては、「かなり抱負を持っている」とお伝えしておきます。

最後になりましたが、比較的温暖の地で育った私にとって、小樽は酷寒の地でありましたが、余計な刺激がなく、快適な研究生活をおくることができたことに感謝いたしております。



離任のご挨拶

言語センター 特任教授
杉村 泰教

縁あって本学に職を得たことが、どれほど私の教育と研究の両面において有意義であったか、私の研究室の窓から手に取るように眺められた小樽港と石狩湾の美しい風景が、どれほど心休まるものであったか、その感謝の気持ちは到底この頁に書ききれものではありません。そうした話は別の機会に譲ることにして、ここでは主に、本学で私が携わった英語の授業の中で私なりに感ずるところを、愚見を交えながら書かせていただきたいと思います。

長文の大意を把握したり英文を聞き取ったりする力は、ある程度身についていると思われまふ。その反面、文法や構文、語彙の知識が目立って不足しているように感じました。最近、特に目に付く傾向は、英文の日本語訳を敬遠することです。これも先に述べた文法、構文、語彙の知識の不足に起因していると考えられます。内容のある英文を一読して、その大意は把握できたとしても、それは出発点であって、問題はそこからです。構文を正確に理解し、熟語、単語に細かく気を配り、前置詞一つ、冠詞一つも揺るがせにせず緻密に読んでいくことは、決して時間の無駄などではなく、海外に電

子メールを送る時、英語で意見を発表したり論文を書いたりする時に潜在的な力を発揮するはずでず。

このような読み方は、高校や予備校で教わる「受験英語」であって、まるで役に立たないから、大学では「実用英語」を教えてほしいという意見を耳にしますが、およそ語学の知識に「受験」と「実用」の区別などありません。科目を問わず、受験勉強で身につけた知識は、すべて実用につながります。私の高校時代の英語の先生の口癖は「分からない単語は勿論、分かっている単語も辞書を引け」でした。分かっていると思いついでいる簡単な単語こそ、非常に多くの意味を含んでいて、私自身、未だにその意外な語義に戸惑う始末です。最近、極めて充実した機能を持つ小型電子辞書が普及して、一台の中に多数の著名な英語辞典が収録されています。単語の発音の仕方も録音されているので、どうか手間を惜しまず、辞書を引くのを楽しみながら英語の勉強を進めてほしいと願っています。

最後になりましたが、小樽商科大学の今後の大いなる発展をお祈り申し上げます。





教職員の皆様、学生諸君、長い間、いろいろお世話になり、ありがとうございました。小樽商大には昭和62年から25年間勤めることが出来ました。昭和57年から59年の2年間の助手時代を含めると、合計で27年もの長い間、お世話になったこととなります。その間、いろいろなことが思い出として浮かんでまいります。特に次の2点についてご紹介させていただきます。

まず、昨日のこのように思い出されるのは、平成23年7月9日に行われた小樽商大の創立100周年記念「小樽商大緑丘百周年祭」に北海道民謡「江差追分」を披露させて頂いたことです。本学の百周年記念のイベントにこのような形で参加させていただいたのは、私にとって本当に名誉なことでした。その時、聞きに来ていただいた皆さんには心より感謝いたします。

次に、教職関係の科目や、ゼミに留学生を交えて行った授業です。本学では短期留学プログラムとして、本学と学生交換協定を結ぶ大学からの留学生を受け入れ、英語で行われる一年間の交換留学プログラムが平成11年度から実施されています。私が担当した「比較文化Ⅲ、Ⅳ」および、「ゼミナール」は短期留学プログラムの協力科目として平成15年度から開講されてきました。授業での共通語は基本的に英語とし、異文化コミュニケーションを通して、日本人学生の英語力養成を目標に授業を進めてきました。当初は留学生と日本人学生の英語力の差が余りにも大きすぎ、どのレベルに合わせれば良いのか

定年退職に際して

言語センター 特任教授
高井 収

と、毎回試行錯誤の日々でしたが、グループ活動を通し、学生同士協力し合い、お互いが英語で意見交換をすることにより、英語力の差も余り、気にならなくなりました。

テーマのひとつを日本文化に置くことにより、日本人学生は発信型の英語力を徐々に身につけ、自文化の重要性も認識するようになり、異文化理解能力が養われ、相互理解の重要性が身を持って理解されるようになりました。留学生も、日本人学生との接触を通じ、日本文化を知る機会が増え、留学生の履修者もだんだん多くなり、今年度（平成24年度）の比較文化Ⅳでは留学生が17名（日本人学生は19名）履修しておりました。また、ここでの教師の役割は主に、留学生と日本人学生の橋渡しの役が挙げられます。

これから益々、国際交流が盛んになる中、留学生を交えた合同授業のメリットは限りないものだと信じます。今後の小樽商大のさらなる発展を祈念しております。





自然あふれる緑丘に 40有余年

言語センター 特任教授
君羅 久則

私が最初にこの小樽商科大学に赴任したのは、1972年（昭和47年）の4月のことです。以来、今年はこの3月をもって41年間、この緑丘の学園に勤めたこととなります。41年前の3月、赴任の準備をするため、小樽を訪れ、入居予定であった小樽商大の宿舎を見に大学まで上って来ました。最初に割り当てられた官舎は、今の合宿所がある辺りに立っていたブロック作りの2軒長屋でしたから。

小樽商大は自然豊かな環境に立っており、眼下には石狩湾の広い海原を見渡すことができるし、裏手には天狗山が控えており、大学より上のほうには、ただ一軒の民家と畑があるだけで、あとは林と森が続いています。街中から大学に登って来るただ一本の道も、車が来ると歩行者は立ち止まってやり過ごさなければならぬほどの道で、その脇には小さな川が流れていました。今でも、半分の川幅に狭められてはいますが、春先には音を立てている雪しろで水かさの増した川の流れを耳にすることができます。

夜間の授業があるときなど、その帰りには、濃い霧のヴェールにつつまれた神秘的な姿を見ることがあります。また、運がよければ、夜、地獄坂を歩いて帰るときなど、坂道からまっすぐ海に浮かぶかと思える高さにかうこうと輝く満月を見ることができます。

研究棟の近くには狐が寄ってきたり、慰霊塔脇を抜ける裏道には蛇がゆったりと地を這っている姿を見せたり、研究棟の裏手にある林には、木々の若芽が映える頃ともなると、鶯がやってきて、研究室にいながらにしてその声を楽しむことができます。また、海側の今

の言語センターのある建物の玄関の前あたりには、リスがやってきて走り回る姿を見たり、きつつきの鳴き声を耳にすることや、時には、色鮮やかなカケスが姿をみせることもあります。このように海が見渡せて、山の懐に抱かれ、自然豊かな教育研究の場というのは、全国的に見ても、そう多くはないと思います。自然を自分自身の五感をもって直接に感じ、接し、観察することが可能ですから、人間の成長に悪からうはずがありません。日本の男性の全国平均の寿命は79.59歳と最近の新聞記事にありました。約80歳とすれば、41年というのはその半分以上の長い時間、まさに「半生」をこの緑丘の学園で過ごしたことになります。このような自然豊かな環境にこれほど長い間身をおくことができたということは至上の喜びといえます。そして、これは、良き学生に囲まれ、立派な教職員の皆様のご支援があったればこそその喜びかと思えます。あらためて、深く感謝いたします。





私は総合商社で国際法務関係の仕事を30年近くしてから本学に来了。世界中で国際的プロジェクトに関する契約交渉をする仕事をして日本に帰ると、日本人がいかに小さな世界に安住しているかと思うことが多い。だから学生には授業や、ゼミを通じて「世界を目指せ」と言ってきた。「世界のどこでも自分は自分と思えるだけの気概を持って」と言ってきた。

小樽商大での思い出はどれも国際取引に関するものだ。2002年に初めてのゼミを持って以来、毎年学生をたきつけて国際取引をさせてきた。学生たちが商品のデザイン、客先の選定、売買条件の交渉、英文契約書の作成と締結、出資、外国送金、船のスペースの予約等を全部自分たちで行った。ある年には、今では世間で当然のように売っている「就活手帳」を自分たちでデザインして輸入した。蝶ネクタイの形をしたキーホルダーを輸入した年は、販売から得た利益で中国の青島にある製造工場を訪ねた。名刺入れを作った年は香港の売手の事務所に行った後、これも中国の東莞にある工場を見に行っった。台湾で作ってもらった革巻きのボールペンは、本学100周年の記念品に採用された。きっと一見難しそうなおこともやってみればできるという思いを持って卒業してくれたことだろう。



楽しい 国際取引の世界

アントレプレナーシップ専攻 教授
中村 秀雄

また2012年の3月には模擬仲裁世界大会に参加するためにオーストリアのウィーンに行った(写真はその時に開会式が行われたコンサートホールの階段)。これは架空の事件について、プロの仲裁人(裁判官のようなもの)の前で、当事者の弁護人として英語で弁護活動をするものである。280校の参加があつて、学生は3日間にわたって2度とない経験をした。

理論は本でも学べるかもしれないが、実践は身体を動かさなければできない。実学の小樽商大なのだから、理論は言うまでもないが、面白い体験をして卒業してもらいたいと思った。このことはビジネススクールでも同じである。私自身の経験からも教材をとったが、加えて実際に国際的企業買収に関与した人を講師によんで講義をしてもらったりして、本当の企業人の戦略思考を学んだ。

異なる文化、異なる言葉、異なる人種、異なる土地、異なる食物、異なる…の中でも、動かぬ自分を持って当たれば、できない事は何もない。商大生には「北に一星あり」とはすなわち「広い世界に自分あり」のことだと思って、輝いてもらいたいと願いつつ12年の教員生活を終わることとする。



学長 山本 眞樹夫
 副学長(総務・財務担当) 和田 健夫
 副学長(教育担当) 大矢 繁夫
 副学長(大学評価・中期目標担当) 奥田 和重

(ダイヤルイン 0134-27-内線番号)

一 商 学 部 一

経 済 学 科

基礎経済学

特任教授 今 西 一 5301
 教授 江 頭 進 5300
 教授 寺 坂 崇 宏 5315
 教授 花 田 功 一 5308
 教授 平 井 進 5323
 教授 松 家 仁 5321
 教授 山 本 賢 司 5309
 准教授 白 田 康 洋 5302
 准教授 水 島 淳 恵 5311
 准教授 劉 慶 豊 5312

応用経済学

特任教授 鶴 沢 秀 5310
 教授 佐 野 博 之 5304
 教授 柴 山 千 里 5313
 教授 澁 谷 浩 5314
 教授 廣 瀬 健 一 5365
 教授 船 津 秀 樹 5318
 教授 和 田 良 介 5319
 教授 横 田 宏 治 5324
 准教授 天 野 大 輔 5322
 准教授 小 島 直 樹 5305
 准教授 中 村 健 一 5317
 助手 國 本 さおり 5320

商 学 科

商 学

教授 穴 沢 眞 5328
 教授 伊 藤 一 5329
 教授 高宮城 朝 則 5330
 教授 中 浜 隆 5331
 教授 PRAET Carolus 5349
 Ludovicus Constantinus
 准教授 CLYMER Neil Edward 5337
 准教授 西 本 章 宏 5340

経 営 学

教授 小 田 福 男 5333
 教授 金 鎔 基 5335
 教授 高 田 聡 5336
 准教授 加賀田 和 弘 5334
 准教授 加 藤 敬 太 5344

会 計 学

教授 乙 政 佐 吉 5341
 教授 坂 柳 明 5339
 准教授 石 川 業 5348
 准教授 二 村 雅 子 5343

企 業 法 学 科

基 礎 法

教授 石 黒 匡 人 5359
 教授 佐古田 彰 5362
 教授 林 誠 司 5363
 特任教授 結 城 洋一郎 5358
 准教授 岩 本 尚 禧 5368
 准教授 小 倉 一 志 5354
 准教授 小 島 陽 介 5355
 准教授 永 下 泰 之 5351
 助手 松 浦 ゆかり 5372

企 業 法

教授 片 桐 由 喜 5367
 教授 多 木 誠一郎 5374
 准教授 河 野 憲一郎 5379
 准教授 河 森 計 二 5361
 准教授 國 武 英 生 5360
 准教授 小 林 友 彦 5380
 准教授 才 原 慶 道 5371
 准教授 南 健 悟 5353

社 会 情 報 学 科

計 画 科 学

教授 小笠原 春 彦 5376
 教授 中 村 隆 志 5377
 教授 行 方 常 幸 5382
 准教授 大 津 晶 5395
 助 教 飯 田 浩 志 5394
 助 教 佐 藤 剛 5396

組 織 と 情 報

教授 持 田 泰 昭 5386
 教授 平 澤 尚 毅 5397
 准教授 阿 部 孝 太 郎 5378
 准教授 深 田 秀 実 5399

社 会 と 情 報

教授 加 地 太 一 5390
 教授 佐 山 公 一 5391
 准教授 木 村 泰 知 5388
 准教授 沼 澤 政 信 5385

准教授 三 谷 和 史 5392
助 教 芳 澤 聡 5398

一般教育等

哲 学
教 授 久保田 顕 二 5401
心 理 学
教 授 杉 山 成 5402
文 学
教 授 中 村 史 5404
歴 史 学
教 授 荻 野 富士夫 5405
社 会 学
特任教授 寶 福 則 子 5407
准教授 西 永 亮 5417
教 育 学
教 授 上 野 耕三郎 5400
教 授 岡 部 善 平 5418
数 学
特任教授 兼 岩 龍 二 5409
准教授 米 田 力 生 5413
物 理 学
准教授 杉之原 立 史 5411
生 物 学
教 授 八 木 宏 樹 5410
保健体育
教 授 中 川 喜 直 5415
教 授 花 輪 啓 一 5416
准教授 石 崎 香 理 5408

言語センター

個別言語部門

英 語
教 授 大 島 稔 5420
教 授 CALUIANU Daniela 5422
特任教授 杉 村 泰 教 5421
教 授 BACKER-HOLST
Mark Anthony 5443
教 授 羽 村 貴 史 5424
教 授 山 本 久 雄 5425
教 授 吉 田 直 希 5426
准教授 THURMAN John
Phillip Jr. 5435
助 教 FAROUCK Ibrahim 5427
ドイツ語
教 授 鈴 木 将 史 5428
教 授 副 島 美由紀 5429
フランス語
教 授 江 口 修 5430
教 授 尾 形 弘 人 5431
スペイン語
准教授 田 林 洋 一 5442

ロシア語
准教授 山 田 久 就 5437
中 国 語
教 授 裴 崢 5436
准教授 嘉 瀬 達 男 5433
日 本 語
教 授 高 野 寿 子 5434

応用言語部門

教 授 CLANKIE Shawn
Michael 5419
特任教授 高 井 收 5439

比較言語文化部門

特任教授 君 羅 久 則 5440
教 授 高 橋 純 5441

ビジネス創造センター

教 授 澤 田 芳 郎 5289
准教授 北 川 泰治郎 5447
助 手 今 野 茂 代 5290

アントレプレナーシップ専攻

教 授 奥 田 和 重 5387
教 授 小 林 敏 彦 5423
教 授 近 藤 公 彦 5326
教 授 齋 藤 一 朗 5345
教 授 瀬 戸 篤 5306
教 授 玉 井 健 一 5332
教 授 出 川 淳 5384
教 授 中 村 秀 雄 5357
教 授 西 山 茂 5307
教 授 簀 本 智 之 5347
教 授 山 本 充 5381
教 授 李 濟 民 5338
准教授 猪 口 純 路 5497
准教授 堺 昌 彦 5352
准教授 保 田 隆 明 5499

教育開発センター

助 教 辻 義 人 5464

平成24年度 学生表彰

学生表彰は、①学業の成果が特に優れていると認められる者として、学部の場合、最短修業年限で卒業する者の中から、毎年、成績上位者3名、大学院の場合、現代商学専攻は修士論文・博士論文の成績が特に優れた者、アントレプレナーシップ専攻は最短修業年限で修了する者の中から、毎年、成績上位者1名 ②課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、本学の課外活動の振興に功績があったと認められる団体又は個人 ③本学の名誉を著しく高めたと認められる者 ④学長が特に表彰に値すると認めるものに対し、その功績を讃え、今後の励みとなるよう表彰するものです。

被表彰者の選考は、指導教員や顧問教員等の推薦及び学部・両専攻教務委員会の推薦に基づき、学生委員会で審議の上、教授会で決定されます。

平成24年度の学生表彰は、次の方々に対し賞状のほかに記念品を贈呈して行い、3月19日挙行的学位記授与式で紹介します。

1. 表彰規程第2条第1号

本学における学業の成果が特に優れていると認められる者

■学部

(学生番号順)

■大学院

学生番号	氏名	学 科
2009201	佐藤 早紀	企業法学科
2009251	須田 幸野	商 学 科
2010021	石王 雄大	社会情報学科 早期卒業

学生番号	氏名	専 攻
201152	喬 春陽	現代商学専攻 博士前期課程
201082	田島 貴裕	現代商学専攻 博士後期課程
201129	村山 秀之	アントレプレナーシップ専攻

2. 表彰規程第2条第2号

課外活動の成果が特に顕著であり、かつ、本学の課外活動の振興に功績があったと認められる団体又は個人

学生番号	氏名	推 薦 内 容
2011252	寺村 怜菜	平成24年度第47回全日本学生トランポリン競技選手権大会において、個人競技女子Bクラス第3位となるなど好成績を収めた。

3. 表彰規程第2条第3号

その他本学の名誉を著しく高めたと認められる者

学生番号	氏名	推 薦 内 容
2007403	三浦 工弥	難関である公認会計士試験に平成23年度現役合格した。



ヘルメスの杖ペーパーナイフ

「ヘルメスの杖ペーパーナイフ」は学生表彰で個人表彰を受けた学生に対して贈呈されるものです。ペーパーナイフの頭部分は、本学の学章「ヘルメスの翼に一星」をデザインしたものです。ヘルメス (Hermes) は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術の神とされています。ローマではマーキュリー (Mercury) と呼ばれています。ヘルメスは、2匹の蛇がからみつけた翼のついた杖をもち、伝令の神として世界を飛翔します。一星は、本学の前身である小樽高等商業学校以来、本学のシンボルとして用いられてきました。「北に一星あり。小なれどその輝光強し。」と謳われた本学の伝統を象徴します。

小樽商科大学学術研究奨励事業
第7回「学生論文賞」

小樽商科大学学術研究奨励事業である第7回「学生論文賞」について、学部学生部門に46編、大学院部門に1編の計47編の応募があり、11月のプレゼンテーション審査、12月の論文審査を経て、各賞が決定しましたのでお知らせします。

学生論文賞の総評は、本学教育開発センターホームページで公表していますので、ご覧ください。

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hkyomu1/fdhome/gakuron/gakuron200700.htm>

■ 審査結果

学部生部門

ヘルメス賞(1編)

・ビジネスシステムにおける経済性の追求—アークスグループの事例から— 中村 穂奈美

優秀賞(6編)

・外在的考え方の理論的検討と尺度作成の試み 和田 果樹

・経営理念と戦略行動の関係性メカニズム—六花亭製菓の事例から— 須田 幸野

・場所性が与える行動への影響について—場面における非日常的コミュニケーションを中心として— 平田 貫

・「市場共創」型 BOP ビジネスの研究—事例：チョトクールを中心に— 桑原 夏美

・日経平均V I 先物のリスクヘッジ手段としての有効性 新行内 翔太, 後藤 将典, 河 潤俊

・途上国における人間開発とグッド・ガバナンスについて(※ ベストプレゼンテーション賞同時受賞) 古屋 杏奈

奨励賞(8編)

・「睡眠の質」を考える～高校・大学・社会人の「睡眠」と「生活リズム」の横断調査に基づく分析と考察～ 坪山 真樹

・How Communicative English teaching could be introduced into every high school in Japan? 平田 祐基, 星川 里絵, 石川ジョアンナ

・地域企業における地域資源の経営資源化—六花亭製菓の事例分析— 笹本 香菜

・重工業界におけるマーケティング—IHIのケース分析— 工藤 和果

・鉄道車窓景観から見た都市境界の分析 梶野 樹

・エージェントの応答時間がユーザーのエージェントに対する印象と信頼度に与える影響 村田 誠将

・生活用品の利用ライフサイクルと習慣性に関する考察 古川 瑞枝

・退職給付会計基準が人々の生活に影響を与える可能性—退職給付制度と会計基準の関係— 小武 真鈴

特別賞(1編)

・異性友人と恋人に対する期待の性差 小林 世羅, 山室 奈々, 久末 悠稀

大学院生部門

該当なし

学術研究奨励金/ヘルメス賞:10万円, 優秀賞:5万円, 奨励賞:1万円, ベストプレゼンテーション賞:1万円

平成24年度小樽商科大学就職状況

(平成25年3月5日現在)

1. 進路状況

■商学部

区 分	昼間コース			夜間主コース			合 計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
卒業生数	299	177	476	26	22	48	325	199	524
就職希望者数	260	153	413	25	16	41	285	169	454
(内訳) 内定者数	248	150	398	24	13	37	272	163	435
(内訳) 未定者数	12	3	15	1	3	4	13	6	19
非就職者数(予定含む)	26	14	40	1	4	5	27	18	45
進学者数	9	9	18	0	2	2	9	11	20
不詳者数	4	1	5	0	0	0	4	1	5
内定率	95.4%	98.0%	96.4%	96.0%	81.3%	90.2%	95.4%	96.4%	95.8%

■大学院

区 分	現代商学専攻(博士前期課程)			現代商学専攻(博士後期課程)			アントレプレナーシップ専攻			合 計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
修了者数	4	7	11	1	0	1	25	8	33	30	15	45
就職希望者数	3	6	9	0	0	0	2	1	3	5	7	12
(内訳) 内定者数	0	1	1	0	0	0	2	1	3	2	2	4
(内訳) 未定者数	3	5	8	0	0	0	0	0	0	3	5	8
既就職者数	0	0	0	1	0	1	22	7	29	23	7	30
非就職者数	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2
進学者数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
不詳者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

2. 産業別・学科別状況

区 分	経済学科		商学科		企業法学科		社会情報学科		合 計	
	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%	人 数	%
農業・林業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.6%	1	0.2%
漁業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
鉱業・採石業・砂利採取業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
建設業	3	2.4%	5	3.3%	3	3.2%	1	1.6%	12	2.8%
製造業	17	13.5%	21	13.8%	5	5.4%	8	12.5%	51	11.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	8	6.3%	3	2.0%	2	2.2%	2	3.1%	15	3.4%
情報通信業	11	8.7%	16	10.5%	6	6.5%	17	26.6%	50	11.5%
運輸業・郵便業	4	3.2%	4	2.6%	1	1.1%	0	0.0%	9	2.1%
卸売・小売業	15	11.9%	28	18.4%	14	15.1%	12	18.8%	69	15.9%
金融・保険業	40	31.7%	42	27.6%	20	21.5%	6	9.4%	108	24.8%
不動産業・物品賃貸業	6	4.8%	2	1.3%	6	6.5%	2	3.1%	16	3.7%
学術研究・専門・技術サービス業	4	3.2%	8	5.3%	3	3.2%	0	0.0%	15	3.4%
宿泊業・飲食サービス業	0	0.0%	1	0.7%	1	1.1%	0	0.0%	2	0.5%
生活関連サービス業・娯楽業	2	1.6%	1	0.7%	1	1.1%	2	3.1%	6	1.4%
教育・学習支援業	1	0.8%	2	1.3%	2	2.2%	1	1.6%	6	1.4%
医療・福祉	1	0.8%	1	0.7%	1	1.1%	0	0.0%	3	0.7%
複合サービス事業	4	3.2%	3	2.0%	0	0.0%	1	1.6%	8	1.8%
サービス業	3	2.4%	3	2.0%	4	4.3%	5	7.8%	15	3.4%
公務	7	5.6%	12	7.9%	24	25.8%	6	9.4%	49	11.3%
就職決定者数	126		152		93		64		435	
未決定者数	2		2		5		10		19	
内定率	98.4%		98.7%		94.9%		86.5%		95.8%	
進学者数	3		8		7		2		20	
非就職者数	6		10		18		11		45	
不詳者数	1		3		1		0		5	
卒業生数	138		175		124		87		524	

3. 企業等別就職・進学人数

区分	企業等名	人数	
農業・林業	有限会社 社台コーポレーション	1	
建設業	スウェーデンハウス株式会社	1	
	タマホーム株式会社	1	
	株式会社 一条工務店	1	
	株式会社 竹中工務店	1	
	三菱電機ビルテクノサービス株式会社	1	
	松井建設株式会社	1	
	清水建設株式会社	1	
	積水ハウス株式会社	2	
	太平工業株式会社	1	
	北海道電気工事株式会社	1	
	北海道セキスイハイム株式会社	1	
	製造業	キヤノン株式会社	1
		コクヨ株式会社	1
サムスン電子ジャパン株式会社		1	
サンポット株式会社		1	
トッパン・フォームズ株式会社		2	
マルホ株式会社		1	
よつ葉乳業株式会社		1	
レンゴー株式会社		1	
株式会社 IHI		1	
株式会社 LIXIL		2	
株式会社 ダイナックス		1	
株式会社 ツムラ		1	
株式会社 トーモク		1	
株式会社 トクヤマ		1	
株式会社 ロイズコンフェクト		1	
株式会社 資生堂		1	
株式会社 小松製作所		1	
株式会社 常光		1	
株式会社 東芝		2	
株式会社 牧野フライス製作所		1	
株式会社 明治		1	
極東開発工業株式会社		1	
三甲株式会社		1	
三菱レイヨン株式会社		1	
三菱重工業株式会社		1	
三菱電機株式会社		2	
山崎製パン株式会社		1	
小野菜品工業株式会社		1	
石屋製菓株式会社		1	
雪印メグミルク株式会社		1	
川崎重工業株式会社		1	
総合商研株式会社		3	
凸版印刷株式会社		1	
日本モレックス株式会社		1	
日本新薬株式会社		1	
日本甜菜製糖株式会社		1	
日立建機株式会社		2	
美津濃株式会社		1	
富士通株式会社		2	
北海道コカ・コーラボトリング株式会社		1	
北海道住電精密株式会社		1	
北海道森紙業株式会社		1	
六花亭製菓株式会社		1	
ほくでんサービス株式会社		1	
北海道ガス株式会社		1	
北海道電力株式会社		13	
電気・ガス・熱供給・水道業		SOC株式会社	2
	TIS株式会社	1	
	エヌ・ティ・ティ・データ・フォース株式会社	1	
	ソフトバンクモバイル株式会社	2	
	ドゥウェル株式会社	2	
	ピー・シー・エー株式会社	1	
	ユーザーサイド株式会社	1	
	株式会社 HBA	1	
	株式会社 NTTデータビジネスシステムズ	1	
	株式会社 RayArc	1	
	株式会社 TKC	1	
	株式会社 アイヴィス	1	
	株式会社 アイティ・コミュニケーションズ	1	
	株式会社 エスシーシー	1	
	株式会社 エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1	
	株式会社 エムテック	1	
	株式会社 コナミデジタルエンタテインメント	1	
	株式会社 ジャパンテクニカルソフトウェア	4	
	株式会社 ソフトコム	1	
	株式会社 つうけんアドバンスシステムズ	1	
	株式会社 プロトコーポレーション	1	

情報通信業	株式会社 ペイロール	1	
	株式会社 リクルート北海道じゃらん	1	
	株式会社 リンクレア	1	
	株式会社 ルーセントスクエア	1	
	株式会社 ワークスアプリケーションズ	2	
	株式会社 工房	1	
	株式会社 十勝毎日新聞社	1	
	株式会社 青森テレビ	1	
	株式会社 富士通システムズ・イースト	1	
	株式会社 北海道アルバイト情報社	3	
	三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社	3	
	東日本電信電話株式会社	5	
	日本コンピュータ・システム株式会社	1	
	日本データスキル株式会社	1	
富士通エフ・アイ・ビー株式会社	1		
北海道総合通信網株式会社	1		
運輸業・郵便業	エア・ウォーター物流株式会社	2	
	ヤマトグローバルエクスプレス株式会社	1	
	株式会社 阪急阪神エクスプレス	1	
	全日本空輸株式会社	1	
	東日本高速道路株式会社	1	
	北海道中央バス株式会社	3	
	卸売・小売業	JA全農ミートフーズ株式会社	1
		YKK AP株式会社	2
		イオン北海道株式会社	4
		サスオール株式会社	1
サントリーフーズ株式会社		1	
シュレン国分株式会社		1	
ダイワボウ情報システム株式会社		1	
ハミュレ株式会社		1	
フラワーヒルズ株式会社		1	
ホームック株式会社		2	
ホクトヤンマー株式会社		1	
花王カスタマーマーケティング株式会社		1	
花王プロフェッショナル・サービス株式会社		1	
株式会社 LIXILピバ		1	
株式会社 いなげや		1	
株式会社 オートボックス北海道		1	
株式会社 ガモウ北海道		1	
株式会社 サッポロドラッグストアー		1	
株式会社 しまむら		2	
株式会社 セイコーマート		5	
株式会社 ダイイチ		1	
株式会社 ディンプルックス・ジャパン		1	
株式会社 ナシオ		1	
株式会社 ニトリ		2	
株式会社 ムトウ		1	
株式会社 モロオ		1	
株式会社 ライファ		1	
株式会社 ラルズ		1	
株式会社 リンクアップ		1	
株式会社 レブニーズ		1	
株式会社 ローソン		1	
株式会社 栗林商会		2	
株式会社 三菱食品		1	
株式会社 千葉室内		1	
株式会社 大丸松坂屋百貨店		1	
株式会社 丹波屋		2	
株式会社 日本アクセス		1	
株式会社 富士メガネ		2	
札幌トヨタ自動車株式会社		1	
札幌日産自動車株式会社		1	
三菱電機住環境システムズ株式会社	1		
生活協同組合コープさっぽろ	1		
大学生生活協同組合北海道事業連合	1		
大丸藤井株式会社	2		
日本ニューホランド株式会社	1		
日本ビューレット・パッカード株式会社	1		
日本出版販売株式会社	1		
豊田通商株式会社	2		
北海道エア・ウォーター株式会社	1		
北雄ラッキー株式会社	1		
コストコホールセールジャパン	1		
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1		
りそなグループ	2		
旭川信用金庫	1		
岡三証券株式会社	1		
株式会社 かんぼ生命保険	1		
株式会社 ジェーシービー	1		
株式会社 みずほフィナンシャルグループ	1		
株式会社 三井住友銀行	3		
株式会社 三菱東京UFJ銀行	5		
株式会社 商工組合中央金庫	1		
金融業・保険業			

金融業・保険業	株式会社 青森銀行	1
	株式会社 損害保険ジャパン	1
	株式会社 大和証券グループ本社	1
	株式会社 日本政策金融公庫	1
	株式会社 日本政策投資銀行	1
	株式会社 北海道銀行	7
	株式会社 北洋銀行	13
	株式会社 北陸銀行	2
	空知信用金庫	2
	釧路信用金庫	1
	江差信用金庫	1
	札幌信用金庫	3
	三井住友海上火災保険株式会社	5
	三井住友信託銀行株式会社	1
	三菱UFJ信託銀行株式会社	2
	室蘭信用金庫	1
	住友生命保険相互会社	3
	十勝信用組合	1
	小樽信用金庫	3
	新潟信用金庫	1
	帯広信用金庫	2
	大地みらい信用金庫	1
	大和証券株式会社	6
	東海東京証券株式会社	1
	東京海上日動火災保険株式会社	5
	苫小牧信用金庫	2
	日高信用金庫	1
	日本銀行	1
	日本生命保険相互会社	6
	農林中央金庫	1
	北央信用組合	1
	北海信用金庫	3
	北海道信用保証協会	1
	北海道労働金庫	5
	北星信用金庫	1
北門信用金庫	2	
明治安田生命保険相互会社	1	
不動産業・物品賃貸業	イオンモール株式会社	1
	株式会社 アパマンショップホールディングス	1
	株式会社 じょうてつ	1
	株式会社 ビッグ	2
	株式会社 桂和商事	1
	株式会社 日本住宅管理札幌	1
	札幌駅総合開発株式会社	1
	三菱UFJリソース株式会社	3
	三菱地所リアルエステートサービス株式会社	1
	早川商事株式会社	1
	大和ハウス工業株式会社	2
	東京センチュリーリソース株式会社	1
	北海道リース株式会社	1
専門・技術サービス業	ホッカンホールディングス株式会社	2
	株式会社 オプト	1
	株式会社 サイバーエージェント	1
	株式会社 トラネスネット	1
	株式会社 リそなホールディングス	1
	株式会社 吉岡経営センター	3
	株式会社 地球システム科学	1
	丸山昭一税理士事務所	1
	宮原和恵税理士事務所	1
	社団法人 日本自動車連盟	1
帝人株式会社	1	
東京コンサルティンググループ	1	
宿泊・飲食サービス業	トーホウリゾート株式会社	1
	株式会社 きちり	1
生活関連サービス業・娯楽業	ウィームスタジアム株式会社	1
	株式会社 JTB北海道	2
	株式会社 オリエンタルランド	1
	株式会社 日本旅行北海道	1
	名鉄観光サービス株式会社	1
教育・学習支援業	学校法人 河合塾	1
	株式会社 Birth47	1
	国立大学法人北海道教育大学	1
	国立大学法人北海道大学	2
	第一看護予備校	1
医療福祉	社会医療法人製鉄記念室蘭病院	1
	社会医療法人母恋 日鋼記念病院	1
	社会福祉法人 嵐山寮	1
サービス複合事業	ホクレン農業協同組合連合会	3
	全国共済農業協同組合連合会	1
	日本郵便株式会社	1
	郵便局株式会社	3

サービス業 (他に分類されないもの)	ANA新千歳空港株式会社	1	
	ユニオデックス株式会社	1	
	旭化成アミダス株式会社	2	
	株式会社 インテリジェンス	1	
	株式会社 リクルートジョブズ	1	
	株式会社 新和グローバル	1	
	株式会社 富士通エフサス	1	
	総合警備保障株式会社	1	
	日本年金機構	1	
	公務 (他に分類されるものを除く)	恵庭市役所	1
		警視庁	1
国税専門官		1	
国土交通省		1	
札幌国税局		1	
札幌市消防局		2	
札幌市役所		13	
札幌地方検察庁		1	
小樽市役所		3	
深川市役所		1	
帯広市役所		1	
滝川市役所		1	
函館市役所		2	
函館税関		1	
浜頓別町役場		1	
法務局		1	
防衛省 北海道防衛局		1	
北海道教育委員会		1	
北海道警察		7	
北海道庁		4	
幕別町役場		1	
網走市役所	1		
陸上自衛隊	2		
航空自衛隊	1		
進学	ランカスター大学	1	
	一橋大学大学院 経済学研究科	1	
	札幌市立大学大学院 看護学研究科	1	
	小樽商科大学大学院 アントレプレナーシップ専攻	2	
	小樽商科大学大学院 現代商学専攻	7	
	神戸大学大学院国際文化学研究科	1	
	東京基督教大学	1	
	東京大学大学院 教育学研究科	1	
	北海道大学公共政策大学院	2	
	北海道大学大学院	2	
日高信用金庫	日高信用金庫	1	
	北海道済生会 小樽病院	1	
	北海道大学	2	
	北海道コカ・コーラボトリング 株式会社	1	
	株式会社 ホッカン	1	
	よつ葉乳業 株式会社	1	
	SOC 株式会社	1	
	石屋商事 株式会社	1	
	札幌商工会議所	1	
	北翔大学	1	
	セコム	1	
	北海道情報大学	1	
	(独) 国際協力機構・札幌国際センター	1	
	株式会社 ヤクルト本社	1	
	TRDA 株式会社	1	
	株式会社 北洋銀行	1	
	和光技研 株式会社	1	
	札幌テレビ放送 株式会社	1	
	NTTヒューマンソリューションズ 株式会社	1	
	住友商事北海道 株式会社	1	
	札幌国税局	1	
社会医療法人 母恋 天使病院	1		
株式会社 恵和アイ・ティ・エス	1		
北海道庁	1		
MPE 技術士総合事務所	1		
北海道医療大学 医学部	1		
株式会社 スズケン札幌北支店	1		
株式会社 セイコーマート	1		
石屋製菓 株式会社	1		
株式会社 ワークスアプリケーションズ	1		
株式会社 エムテック	1		
北海道教育委員会	1		
イオンモール 株式会社	1		

【大学院修了者就職先】

卒業後に証明書が必要になったとき

以下の方法により、卒業生本人が、手続きをしてください。

事情により代理人による場合は、委任状及び代理人の本人確認書類が必要となります。

郵送での受取

以下の書類を請求先へ送付してください。
本学到着後、原則、翌日に返送いたします。

- ① 申込書
- ② 本人確認書類のコピー
(運転免許証等)
- ③ 返信用封筒
(宛先を記入し切手を貼付)

窓口での受取

1. 請求

事前にe-mail又はfaxにより、申込書及び受取希望日を送信してください。

本学受信後、e-mail又はfaxにてお渡し可能日等を返信いたします。

2. 受取

本人確認書類を持参のうえ、学生センター総合案内までお越しください。

なお、事前申込のない場合、その場でお渡しできないことがあります。

申込書はウェブサイトから

※申込書及び手続きの詳細は、本学ウェブサイトに掲載していますので、事前に必ず確認してください。

小樽商科大学 証明

検索

ホーム > 学生生活・就職 > 諸証明の請求方法等について > 諸証明の請求方法
<<http://www.otaru-uc.ac.jp/campus/syomeisyo/seikyuu.html>>

請求先

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号
小樽商科大学学務課学務企画係 tel:0134-27-5236 fax:0134-27-5243
e-mail:g-kikaku@office.otaru-uc.ac.jp



卒業おめでとう！



OTARU UNIVERSITY OF COMMERCE

GAKUEN DAYORI

No.170

リサイクル適性 

○この印刷物は、国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）に基づく基本方針の判断の基準を満たす紙を使用しています。
○リサイクル適性の表示 この印刷物はAランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。